

NEWS 病院ニュース

2009年7月 第18号 (年4回発行)

主な内容

- 1面 ●みなみ棟の改修完了7月オープン
●<コラム>「くすり」にもつらい季節?
- 2面 ●【緩和ケア】がん患者さんの治療と心の安らぎを
●患者さんの声
- 3面 ●新人スタッフからメッセージ
●眼瞼下垂症について
●<ミニニュース>2名が選任、「必ず誰かいる体制に」
- 4面 ●<フリートーク>自覚なしに進行する生活習慣病に挑む／横手幸太郎教授
●<亥鼻むかし・昔>千葉氏の七人の兄弟とは?
●<トピックス>いま話題のジェネリック医薬品について



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

さらに快適な

みなみ棟の改修完了
7月オープン

療養環境を実現

昨年5月にオープンした「ひがし棟」に引き続き、千葉大学病院では「みなみ棟」の改修が完了し、7月に小児科、小児外科、周産期母性科、形成・美容外科が外来・入院業務を開始しました。

NICU開設に 向け一歩前進

今回の改修工事で一番大きな改善点は、患者さんの療養環境をより快適なものにするための様々な取り組みと、新生児の入院機能を充実させ、将来のNICU(新生児特定集中治療室)開設に向けて一歩前進したことの2点です。

療養環境の改善点は、6床病室を4床病室に、2床病室を個室とする。ことで、入院患者さん1人あたりのスペースをひがし棟に準じた広さにしたことがまず挙げられます。また、空間の確保だけでなく、より快適な入院環境をつくるために、様々なアイデア、工夫が施されています。

小児病棟の プレイエリアを拡大

3階の小児病棟では、「入院生活を子ども達も少しでも楽しく送れるように」という願いのもと、病棟全体の壁に絵を描いてもらったこと、クリーンエリア内にも子ども達のプレイルームを新たに設けたこと、長期間外に出ることができない子ども達のために、屋上にプレイエリアを設けたことが特長の二つです。

病棟の壁絵は、全国の小児病棟でもすでに広く取り入れられていることですが、新しい点は病棟全体を1つの町として、ストーリー性をもたせて描くというコンセプトです。

この町では、独自のキャラクターが町のあちこちに出現し、子ども達はそれぞれのお気に入りのキャラクターを壁に見つけることができます。この壁絵は画家の伊藤香奈さんに描いていただき、本学教育学部加藤修教授のご協力のもと、多くの学生さんに塗ってもらいました。さらにこのキャラクター達は今後、絵本、病院パンフレットなどにも登場してもらおう予定です。

クリーンエリア内病室に入院している子ども達の多くは、感染症に対する抵抗力が非常に落ちており、半年から数年にわたりそこから出ることはできません。従来は狭い廊下で遊び回っていましたが、プレイルームを新たに設けたことで、ここで自由かつ安全に遊ぶことができるようになります。

また、こうした子ども達に屋上プ

みなみ棟廊下に描かれた伊藤香奈さんのキャラクター



屋上に設けられたプレイエリア

クリーンエリア内のプレイルーム



周産期母性科、小児科、 小児外科の連携に期待

入院機能の改善点は、従来本院での新生児入院機能は収容能力が非常に限定されており、周産期母性科で生まれた赤ちゃんでも、入院が必要な場合、新生児科のある専門施設へ搬送しなくてはならないことが多々ありました。

今回の工事で、従来3階にあった未熟児室を2階周産期母性科病棟と同じフロアに移し拡充することによって、本院に入院することのできる赤ちゃんの数が増えるだけでなく、周産期母性科と小児科、小児外科との連携もより緊密なものになると期待しています。

1階外来では、待合室のプレイスペースが一番良い場所に移動しました。保護者の方も、安心して子ども達を遊ばせておけることと思えます。(小児科講師・皆川真規)

いの はな コラム

日中の最高気温が30℃を超えた日を真夏日といいますが、今年も蒸し暑さが本格的になり、真夏日になる日もできました。年々、この真夏日が多くなってきているように思います。この30℃という温度になると、マメ科植物は花が落ちて実がならないともわれていますが、薬剤師にとっては「室温の上限」というイメージが強い温度でもあります。

一般に室温は20～25℃といわれるようですが、薬に関して様々なことを規定している日本薬局方(厚生労働大臣が定めた医薬品の規格基準書)では、1～30℃とされています。薬の世界として意外に思われるかもしれません。しかし、これからの季節、冷房をつけずに閉めきった部屋では簡単に超えてしまいます。室温が1℃からなら、冷蔵庫で保存すればいいこととなりますが、湿気に弱い薬、一包化された薬などは、出し入れに注意が必要です。特に瓶に入った薬は、必要分だけをすく取り出すことが難しいので、瓶が汗をかかない程度に戻してから蓋を開けないと、中も湿ってしまいます。その状況を想像すると、冷房のきつい電車で震え、その後、外を歩き汗だくでぐったりする自分に重ねてしまいます。

医薬品は様々な条件での安定性を確認し、貯法・保存条件を定めていますが、その中に温度30℃以上、湿度90%以上で行われる苛酷試験というものがあります。しばらくは、人にとっても薬にとっても苛酷な時期が続きます。夏は暑くて当然ですが、これ以上、地球が暑くならないことを願っています。

(薬剤部長 北田 光一)

「くすり」にも
つらい季節?

緩和ケア

がん患者さんの治療と心の安らぎを

昨年5月にオープンした「ひがし棟」。10階には5床の緩和ケア病床があり、苦痛を和らげる入院治療を行っています。

また、当院には緩和ケア病床とは別に急性期病棟入院中の治療中の患者さん対象に緩和ケア支援チームも活動しています。緩和ケアを必要としている入院患者さんに対して、多職種が協力して、QOL(生活の質)の向上や苦痛の緩和につながるケアを提供できるよう努力しています。



やすらぎの部屋

多職種が協力し、ケアを提供 緩和ケア支援チーム

悪性腫瘍(がん)と診断された患者さんには、手術・化学療法・放射線療法などが細胞と戦うことを目的とした治療が開始されます。これらの治療と並行して行うべき治療、ケアとして身体や心の苦痛に対する治療があります。

治療は時にづらい副作用を伴います。期待した通りの結果が得られず「がんの再発」と主治医から説明を受けるかもしれません。そのような時にも、身体や心の苦痛を和らげ、最善の治療、療養生活が受けられるように援助しています。

すべての患者さんのQOLを高めることを目的に「緩和ケア支援チーム」が組織されています。専門の医師・専門の看護師・ソーシャルワーカー・薬剤師・リハビリテーション専門の医師・理学療法士・和漢診療科の医師がチームを組んで、がん入院患者さんや家族と一緒に必要なケアを提供していきます。



ネイルセラピーを行なう坂本真純看護師

苦痛を和らげる治療 緩和ケア病床

へがんによる痛みとからだの苦痛、こころの苦痛を和らげる入院治療



アロママッサージを行なう古川由美子看護師

療を専門的に行っているのが「緩和ケア病床」。ひがし棟10階に5床の個室があります。経験豊富な看護師がご家族とともに穏やかに、その人らしい生活が送れるようお手伝いしています。治療を当院で受け、担当医師により治療が難しいと判断さ

れ、緩和ケアを望む方が対象となります。隣接のやすらぎの部屋には季節の草花が飾られ、マッサージ用の椅子、畳の部屋、簡易キッチンを備え、ご家族が休憩できるように作られています。月1回のコンサートも開かれ、患者さんが憩いのひとときを過ごしています。

看護師によるネイルセラピー、アロママッサージも患者さんに好評で、ひとときのやすらぎを与えています。ネイルセラピーを行なう坂本真純看護師は「趣味で始めたことが患者さんの爪を飾り、まあきれい!」と喜んでいて姿を見ると、看護の職場に興味を生かすことができている実感があふれます」と語り、アロママッサージを行なう古川由美子看護師も「腕・手などのマッサージで、患者さんから「よく眠れるようになった」、家族から「教えて欲しい」といわれたりして、患者さんの家族にも喜んでもらっています。



緩和ケア支援チーム

患者さんの声

皆様の声に 答えします

●病院の管理、診療、看護etc

主 治医のA先生に、手術の手術および筋力の手術を長時間にわたって大変お世話になりました。4月から、他の病院へ異動になると聞きましたので一筆書きます。

「完全に治るまで2年ほどかかります」といわれ、気の遠くなる思いでしたが、「あせらずゆっくりリハビリに励んでください」とのお言葉に励まされ、おかげさまで1年になりましたが、手術の傷も分らないほどに治り、指の動きもよくなりました。A先生本当にありがとうございました。

泌 尿器科で4年間にわたり入院を繰り返して、亡くなってしまった患者の家族の者です。

B先生をはじめAチームの先生方、7階西病棟の看護師の皆さんには、本当にお礼を言い尽くせないほどお世話になりました。大病院というところで、大勢の患者をみなければならぬなか、一人ひとりの患者さんのことを考え治療・看護の方法を検討し、チームで笑顔を絶やさず心から患者に接してくださいました。がんという病気の終末で、こんな気持ちで時を過ごさせていただいたことは、本当に感謝でいっぱいです。

先 日の院内コンサートにすごく感動しました。自分も入院前までは市民楽団に所属し、音楽をやっていました。今回の演奏会で、音楽の持つ力を改めて感じました。ぜひ、またこのような演奏会を開いて欲しいと思いました。ありがとうございました。

前 置胎盤というところで、個人病院から不安な気持ちで千葉大病院にきました。主治医であるC先生から具体的に分かりやすい説明をいただいたり、すべての看護師さん、助産師さんの優しい笑顔、親しみやすさで、不安よりも安心リラックスして出産、帝王切開に臨むことができました。

おかげさまで母子ともに、産後も元気に過ごすことができました。

Q 予約できているのに、3時間くらい待たされました。予約の意味がないと思います。もっと余裕ある人数にするか、システムを直してほしい。必ず1時間以上待たないといけないのが、とても不快に思います。

A 予約時間より実際の診察時間が遅くなり、大変失礼いたしました。本来ご病気の治療のため来院された患者さんにとっては、長時間の待ち時間は身体への負担がかかるだけでなく、何かと不安な心境になられることとお察しいたします。

受診された日は、予約で来院された患者さん以外に新患の患者さん、体調不良のため予約外で受診された患者さんが多く、当科の外来担当医は予約受診の患者さんを極力お待たせしないように努力はしましたが、結果的に長時間お待たせすることになってしまいました。

今後は、患者さんの担当医師も含め当科外来医師の時間当たりの予約数を見直し、不測の事態においてもなるべく待ち時間が長くないようにすること、また長い待ち時間が発生した際には、待機中の患者さんに状況をお知らせすることなど、努力することといたしました。

新人スタツプからメツセージ

千葉大病院では、平成21年度の病院職員として研修医63名、看護師124名、コ・メディカル17名を採用しました。その中の4人から、仕事に対する心構えや夢について、メツセージを寄せていただきました。

信頼されるソーシャルワーカーに！ 医療ソーシャルワーカー 青柳 純子



出身・立教大学卒

私の仕事は、患者さんとご家族の希望に耳を傾け、医療費の問題や転院先の相談などに応じる事です。そのためには、何より親身になってその声を聞き、安心して療養生活ができるようお手伝いすることが、一番大事だと心に銘じています。まだまだ勉強不足ですが、先輩のアドバイスを的確に理解し、1日も早く信頼されるソーシャルワーカーになるのが目標です。

mini news

2名を選任、 「必ず誰かいる体制に」

●ゼネラルリスクマネージャー

平成11年、ある大学病院で手術時の患者を取り違える医療事故が起きました。この事故を契機に、国立大学病院に医療安全に関わる業務を行う部署を設置し、主に専任の看護師を配属することが取り決められました。

本院においても、平成13年度に安全管理室(現医療安全管理部)を設置し、専任で医療安全に携わる看護師長を配属し、安全管理体制を整えてきました。

このような体制を整えてからおよそ8年が経過し、現在では医療安全に対する組織的な取り組みに加えて、医療の質の確保も求められるようになりました。

日頃、医療安全には「センス」と「スピーディさ」が必要だと思っています。これには(インシデント*)をあらゆる側面からその要因を分析し、改善を図ること。検証と対応を迅速に行うことで、初動体制を円滑にすること。そして、医療事故の起こらない組織をつくることであると考えています。

平成21年の4月より専任のリスクマネージャーが2名となり、医療安全管理部には「必ず誰かいる」という体制となりました。患者さんに信頼される安全で良質な医療を提供できるよう支援していきます。

*インシデント=患者さんの診療・ケアにおいて、本来あるべき姿から外れた行為や望ましくない事態のこと。

(医療安全管理部 リスクマネージャー 金澤 薫)

恵まれた環境に感謝！ 看護師 沼倉 知世

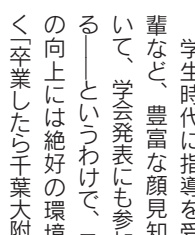


出身・青森県立保健大学卒

また母が病気になる、病院で看護師さんの仕事を身近に見て「これが私の進むべき道だ」と思ったので。着々と準備を進め、千葉大病院のサマインターンシップや見学会に参加して、いきいきハツラツとして働く看護師の姿や研修制度がとても充実している点に魅力を感じ、ここに就職を決めました。

私は北海道で育ちましたので、いつも生活の中に雪があつたのですが、今は千葉で雪知らずの生活をしていきます。とても快適ですね。一人前の看護師になるには、3〜5年はかかると思いますが、さまざまな面で恵まれた環境にいられることに感謝し、しっかりと勉強して、地域に貢献できるよう頑張ります。(北海道出身・青森県立保健大学卒)

モチベーション向上には絶好！ 研修医 栗本 遼太



出身・千葉大学医学部卒

現在わが国においては、死因のトップががんです。その臨床研究に取り組み、がんの専門医として頑張り、がんで苦しむ患者さんを少しでも減らしたいという夢を描いています。

研修医としてまず心がけていることは、患者さんの気持ちを自分のこととして理解し、語り合い、そして信頼を築くことです。これが医師としてもっとも大切なことではないでしょうか？



出身・千葉大学医学部卒

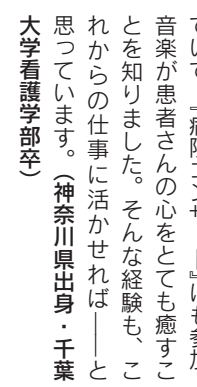
やりがい感じて勉強中！ 看護師 屋久 裕介



出身・千葉大学看護学部卒

千葉大病院は、学生時代に実習やインターンシップに参加して知っていましたが、何より研修プログラムがしっかりと充実していて、現在やりがいを感じて勉強中です。

接する患者さんの中には、個性的な方も多々いらして、話をする際のことば遣いに悩むこともしばしばあります。そんなときは、先輩がとても優しくアドバイスしてくれるので、何の不安もありません。(学生時代の実習では、とても怖い先輩だったのですが...)



出身・千葉大学看護学部卒

看護師・助産師募集!

千葉大学病院では、「7人の患者さんに1人の看護師」の看護体制となりました。今後、より質の高い看護を提供すべく、次のとおり看護師及び助産師を募集します。

- 応募資格/平成22年3月卒業見込みで、看護師・助産師免許取得見込みのある方、または既に免許を取得されている方
- 求人数/約100名(定員に達した時点で締め切ります)
- 採用予定日/平成22年4月1日

《本院説明会・見学会》
◇平成21年 8月3日(月)、7日(金)、10日(月)、31日(月)、9月4日(金)

《インターンシップ》
実際の看護を体験してみませんか?
◇第1回/平成21年8月18日(火)~21日(金)
◇第2回/平成21年8月25日(火)~28日(金)
*説明会及びインターンシップ参加希望の方は、①お名前 ②学校名 ③学年 ④参加希望日 ⑤連絡先を記入の上、開始日の7日前までにメールにてお申し込みください。なお、遠方の方には宿泊料の援助もいたします。

E-Mail kango@office.chiba-u.jp
■お問合せ先/
総務課人事係
Tel 043(222)7171(内線:6021)
看護部副看護部室長
Tel 043(222)7171(内線:6519)
http://www.ho.chiba-u.ac.jp/recruit.html

眼瞼下垂症について

まぶたを持ち上げる筋肉を「眼瞼挙筋(かんげんきょきん)」といいます。この眼瞼挙筋腱膜(けんまく)が瞼板(けんばん)からはずれたり、もしくは伸びてしまつて、力が伝わりにくくなつた状態を腱膜性眼瞼下垂症といいます。初期は額にしわを寄せて眉を持ち上げるなどしてまぶたが上がりますが、進行すると視野をさえぎるようになってきます。眼瞼下垂症の治療では、腱膜の修復を行います。

眼瞼挙筋腱膜の力が伝わりにくくなると、眉を上げてまぶたを開けようとします。このとき額の筋肉だけでなく、うなじの筋肉や肩の筋肉も連動して収縮します。そのために肩こり・筋緊張性頭痛がおきます。

さらに、上まぶたのもうひとつの筋肉ミューラー筋の作用を使ってまぶたを開けるようになります。このミューラー筋は交感神経支配で、ミューラー筋を収縮させるために常に交感神経を興奮させている状態になります。そうすると無意識のうちに身体は常に戦闘状態におかれてしまい、このことが交感神経刺激症状(易疲労、不安障害、睡眠障害)を引き起こすと考えられています。

眼瞼下垂症を疑う徴候として、「ひたいのしわ」「疲れやすい・不眠」「あごを突き出してテレビを見る・運転する」「肩こり・頭痛」「コンタクトレンズ長期装用、花粉症、目をこする癖」などがあります。

生まれつき目の細い、いわゆる東洋人らしい目つきをした人は、瞼を持ち上げるための負担が大きく、若い時から症状が出現しやすいと予想されています。

眼瞼下垂症の治療をご希望の患者さんは、形成・美容外科の眼瞼下垂症外来受付にご相談ください。

(形成・美容外科:眼瞼専門外来 水曜日午後)



F R E E TALK (フリートーク)



千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝 内分泌内科教授 横手 幸太郎

自覚なしに進行する生活習慣病に挑む

もっとも多い疾患は糖尿病

私の所属する「糖尿病・代謝・内分泌内科」は、その名の通り生活習慣病のうちの糖尿病をはじめ、痛風・脂質異常症、甲状腺に関係する内分泌疾患、肥満症、若くして高齢者の体質になつてしまつウエルナー症候群(早老症)などが診療の中心です。患者さんの数としては、一位が糖尿病、二位甲状腺疾患、三位脂質異常症(高脂血症)となつています。

その中の特に糖尿病は、わが国の五〇歳以上の五人に一人、約一〇〇〇万人の患者さんがおり、これは本人の自覚症状がないまま静かに進行するやつかいな病気。糖尿病は放つておくと動脈硬化以外に目、腎臓、神経の病気(合併症)を招きます。脂質異常症の場合にも同様で、いずれも動脈硬化を招き、心筋梗塞や脳梗塞など、命にかかわる病気を引き起こす怖れがあります。

キーワードは(動脈硬化)の予防

肥満症につきましても、最近にわかに注目を浴びているメタボリックシンドロームがあります。これは腸や肝臓といった腹部の内臓の周囲に脂肪がたまつた状態となり、加えて脂質、血圧、血糖のうち二つ以上の項目が異常値を示す状態のこと、動脈硬化がきわめて進行しやすいといわれています。

(メタボ健診)は、ほとんどの医療機関で行つており、腹囲やBMI(体格指数)、また血液検査によって血糖や脂質の数値をチェック。血圧測定、喫煙歴を調査して、最終的に危険因子の評価をすることになります。そこで動脈硬化性疾患のリスクの程度が判定されて、それに心じた指導が行われます。

生活習慣病の中で(動脈硬化)は、大きなキーワードだと思えます。この動脈硬化を防ぐには、血糖や血圧のほか、血液中の脂質のバランスが重要です。食べ過ぎたり、運動不足であると、脂質

のバランスが崩れて脂質異常症となり、動脈硬化を招くわけで、何よりも定期的に検査を受け、脂質のバランスについて確認することが大事です。

日本は世界でもトップの長寿国家になりましたが、近年、寝たきりや要介護の高齢者が増え続け、社会の不安材料となつています。その原因の第一位は脳卒中(動脈硬化)であり、今後健康長寿の実現(健康寿命を伸ばすため)には動脈硬化の予防が不可欠といえます。

食生活の改善、運動、禁煙

そのほか、普段の心構えとしては①食生活の改善 ②一日の適正な摂取エネルギーの量を知り、炭水化物、たんぱく質、脂肪三大栄養素をバランスよく食べる ③運動の励行 ④動脈硬化から血管を守るHDLコレステロールの値を上げるため運動を欠かさない ⑤禁煙の決断 ⑥喫煙は、心筋梗塞、脳卒中のリスクを高める。今禁煙の決断を。

私は特に糖尿病(脂質異常症)や早老症を、当面の研究テーマとしています。同じような食生活をしても、病気になる人とならない人がいるのです。通常それは「体質の違い」として片付けられてしましますが、みんなが普通の生活を送りながら、生活習慣病やその合併症を防ぐことができる。そんな方法や薬品の開発ができればというのが私の夢。そのための研究をこれからも続けていくつもりです。

トピックス いま話題のジェネリック医薬品について



「ジェネリック医薬品」という言葉をお聞きになったことがあるかと思います。最近、マスメディアでもさかんに宣伝されていますが、ジェネリック医薬品とは正式には「後発医薬品」と呼ばれ、新薬(先発医薬品)の特許期間満了後に同一成分の薬を他のメーカーが製造、販売するものです。

新薬の開発には、莫大な経費が必要となりますが、ジェネリック医薬品ではその経費が節約できるため、価格を安くできることが最大のメリットです。

このように、ジェネリック医薬品は、薬の本体、つまり有効成分そのものは先発医薬品と同じですが、製法や添加物が異なるものも多くあり、これらの違いが薬の安定性や安全性に影響する可能性も考えられます。また、ジェネリック医薬品メーカーの中には、製品を安定して供給できないメーカーが存在するの事実です。なお、当院ではこうした様々な点を薬剤師が比較、評価し安心・安全であることを確認した上でジェネリック医薬品を採用するようにしています。

このような視点から、ジェネリック医薬品に関心を持っていただけたらと思います。

(副薬剤部長・中村裕義)

みなさんは、インターネットやメールをどれくらいお使いでしょうか? この便利でしかも安価な情報源に慣れてくると、どんなことでも調べられるような錯覚に陥りそうです。医学や医療に関する情報もネット上に満ちあふれていますが、情報源が信頼できるかどうかをしっかりと吟味しないと、翻弄されてしまいます。

2004年5月創刊のこの『病院ニュース』も、今回で第18号になります。年4回の発行ですので、最新の「ニュース」ばかりというわけにはいきませんが、毎回編集会議で議論を重ねながら、皆様を知っていただきたい情報を厳選してお伝えするよう努力しています。

しかし、読者の皆様からのフィードバックがなりよりも重要です。前号に引き続き、今回もアンケート用紙をはさんでありますので、まだご回答いただいていない方は是非ご協力ください。

インターネットの話題に戻りますが、この『病院ニュース』は、当院のホームページ上に創刊号以来の全号が掲載されており、ダウンロードすることもできるようになっています。ご利用いただければ幸いです。病院ニュースのURL http://www.ho.chiba-u.ac.jp/chiba_news.html

(呼吸器内科准教授・病院ニュース編集長 滝口裕一)

7 変身 七天王塚にまつわるいい伝え 千葉氏の七人の兄弟とは? 千葉大学医学部の敷地内と敷地外にある七天王塚の七つの塚は、北斗七星を表している... 常胤には胤正(政)、師常、胤盛、胤信、胤通、胤頼という六人の子供がおり、その子孫は、現在の千葉県はもとより岐阜県、東北地方や九州など全国に領地を得て、「千葉六党」と呼ばれ活躍しました。しかし、これでは一人足りません。「千葉大系図」を見ると、常胤の男子に日胤という名があり、滋賀県の園城寺で頼朝の祈願僧だったが、戦死してしまつた。常胤は円城寺と名づけ冥福を祈り、さらにその子孫を家臣とした」と書かれています。千葉氏の七人の兄弟の墓という七天王塚のいい伝えには、やはり常胤の七人の子がふさわしいと思えます。戦死した日胤を、後世の人々は決して忘れていなかったのです。(妙見信仰研究家・宮原さつき)



千葉常胤像(千葉市立郷土博物館蔵)